

昭和学院 中学校 高等学校

広報 第3号

昭和学院中学校高等学校
〒272-0823 市川市東菅野2-17-1
TEL 047-323-4171
FAX 047-326-5310

<http://www.showa-gkn.ed.jp/js>

— 創立70周年を迎え —
卒業生に送る言葉

新生昭和学院始動



開放感のある生徒ギャラリー（宙に浮いた存在感のある照明付きの円形モニュメント）

君たちが織りなす文様とは

学校長 井上 俊彦

昭和学院は、今年創立七十周年を迎えます。「人生七十古来稀なり」杜甫の詩にもあるが、人間で言えば古稀、喜ばしいかぎりです。昭和十五年に創設して以来、六万人余りの卒業生を送り出しました。

「一年先を見る人は花を、十年先を見る人は木（森）を、百年先を見る人は人を育てよ」との言葉がありますが、本校の創設者である伊藤友作先生はまさにこの言葉通り、いかに教育が大切かを鑑み本校を創設しました。子どもは家庭、地域・社会、学校によって育まれる。「三つ子の魂百までも」子に寄りそう母親の存在、これからの社会における女性の果たすべき役割の大きさに気づき、いち早く女子教育に力を注いだのです。

本校の建学の精神である「明敏謙讓」を縦糸とし七十年という年月をかけ、今ある昭和学院という錦を織りなしました。建学の精神である「明敏謙讓」は不易なるもの、男女共学になろうと変わるものではありません。

しかし、そこに織りなす文様は時代の流れと共に変わりゆくものです。今の時代に本当に求められている教育とは何なのか。新生、昭和学院は今、大きな変革の時期を迎え新たな出発をしようとしているのです。

世の中は情報社会、少子化、高齢社会を迎え大きく変わってきています。そんな中、近代社会の幕開けとなった明治維新で活躍した人々が注目されています。坂本龍馬しか。なぜなら、時代を超え日本の将来を見すえ、かなたを見つめる目が、これからの社会を生きる人々に求められているからです。創設者、伊藤友作先生が日本のこれからを

考えたように、君たち、一人ひとり自分の歩む道程を展望し、自分らしい生き方を目指さなければなりません。一口に自分らしい生き方と言われても難しいことでもあります。でも、そのヒントはみなさんが学んでこられた本学院にあります。昭和学院という文武両道の伝統を持つ本学院は全国レベルで活躍する人たちがたくさんいます。共通することは何でしょう。それは、だれもがこうなりたいと目指す姿・目標をしっかりと掲げていること。そして、日々のたゆまざる努力。それでも、簡単には手にすることのできない栄光、でも決して諦めない、ねばり強さ。その積み重ねがあればこそその業績ではなかったでしょうか。

君たち、一人ひとりの人生も同じではないでしょうか。自分はこうありたいとの思い、そして、それを実現するための日々の努力。「強い意志と実行力」それこそが、君の未来を切り拓く鍵となるのです。その鍵を手に、自分が描く未来像を縦糸に、充実した一日一日を大切に生きたならば、きっと誰にでも自分らしい織物が、君ならではの文様を織りなしてくれるはずです。

新生、昭和学院は私たち教職員が一丸となり、生徒・保護者に選ばれる真に信頼される学校をめざし歩み続けます。君たちも、これからの様々な出会いを大切に、自分らしい文様を紡ぎ出して下さい。教職員一同、楽しみにしています。



学校行事

一生懸命に取り組んだ学校行事

■ 中学・高校 生徒会主催スポーツ大会

本年度の生徒会主催の耐寒スポーツ大会が、高校は1年生が2月8日(月)、2年生が2月9日(火)、中学校は2月15日(月)に行われた。高校は「大縄跳び」で、5分間にクラス生徒一人ずつが8の字に飛んでいき、その総合回数を競った。男子・女子ともに回数を数えながら、会場は熱気にあふれていた。

1年生優勝 1年B3組 (355回) 2年生優勝 2年B1組 (408回)

中学校では「ドッチボール」大会が実施された。学年問わすのトーナメント戦で行われ、各クラスとも男女の連携プレーもよく、とくに2年生の活躍は目覚ましかった。

優勝 2年4組 2位 3年5組 3位 3年2組、4組

生徒会を中心とし、各学年とも熱気にあふれていた耐寒スポーツ大会であった。



大縄を跳ぶ高2の生徒たち



集中している中学生のみなさん

■ 中学・高校 第6回 百人一首大会

第6回百人一首大会が、高校では2月4日(木)に中学校では2月6日(土)に新館図書室や第3アリーナでそれぞれ開催され、結果は下記の通りである。

- 高校団体賞 優勝：1年A1組、準優勝：2年A1組、第3位：1年A3組
 高校個人 最優秀賞：福田 美里 (1年A3組)、岩橋 直子 (1年B1組)
 優秀賞：富永 偉吹 (2年A1組)
 奨励賞：副島 希 (1A1)、稲葉七海 (1A1)、安達丈晃 (1A3)
 鈴木咲貴 (1B2)、黒田仁美 (2B3)
 中学個人 最優秀賞：笹之池 真凜 (2年3組)
 優秀賞：大和茉莉 (1-3)、伊藤智紀 (2-1)、三浦優奈 (2-1)
 門井宏平 (3-1)、高橋もも (3-1)

■ 中学・高校 校内書初展

1月29日(金)～30日(土)、校内書初展が新館1階生徒ギャラリーにて開催された。これは社団法人書星会・千葉日報社主催の「千葉県小・中・高校書き初め展覧会」に出品した中で書星会賞と特選以上の作品を集めたものだ。課題は、中学1年「船出の朝」中学2年「大志を抱け」中学3年「希望を達成」高等学校「梅散入風香」。年末から練習に入り、学年によってはかなり書きこんできた。中学生は書写だが高校生は芸術書道なので、書体・書風もさまざま。地区代表として中3高橋美羽さんと高1の田島瑛也香さんが1月24日(日)千葉県総合スポーツセンター体育館で行われた第62回書き初め席書大会に参加した。限られた3枚の用紙に日頃の練習の成果を堂々と書き、2人とも千葉日報社賞に輝いた。また校内書初展では校長賞に中2松本祐里奈さん、高1大木光世さんの力作が選ばれた。



地区代表の作品 (左2点)



講演される領塚正浩氏

■ 図書館 第38回 文化講演会

第38回図書館主催文化講演会が、去る2月18日新校舎自習室にて開催され、市川考古博物館の領塚正浩氏を講師に「縄文時代の市川と人々の暮らし～曾谷一町目の向台貝塚を中心として～」という演題で話をいただいた。

市川市内にある縄文時代の遺跡が紹介され、中でも比較的昭和学院に近い向台貝塚から発掘された出土品などから縄文時代の人々の生活習慣が説明され、参加した生徒も興味深く聞いていた。また、現在昭和学院が位置する場所は縄文時代は「砂洲」といって潮干狩りに適した地域だったことなど、学校と結びつけた話もいただいた。授業では学びきれないような専門的な話を市内の博物館の方から聞くことができ、充実した時間であった。

全国選抜大会

生徒会

奨学会

春の全国選抜大会出場決定

●高校新体操部

全国高等学校新体操選抜大会（3月27～29日・北海道）

●高校ハンドボール部女子



全国高等学校ハンドボール選抜大会
（3月25～30日・岩手県花巻市総合体育館銀河アリーナなど）

【Voice】 高校ハンドボール部女子監督 笠原利宏

「宮本実穂（2B2）、小山侑花（2B2）、小畑慧里子（1A3）などを中心に、千葉国体の土台となる結果を残したいと思います。」



●高校ソフトテニス部女子

全日本高等学校選抜ソフトテニス大会
（3月29、30日・愛知県名古屋市総合体育館）

【Voice】 高校ソフトテニス部監督

太田博勝

「江澤（2A1）・肥後（1B3）ペアを中心に、ベスト8以上を狙って頑張ります。」

新生徒会役員紹介

昨年12月に生徒会役員選挙が行われ、新生徒会役員が決定した。

会 長・川内勇太君（2A2）

副 会 長・及川更紗さん（2A2）・林賢太郎君（1B3）

書 記・渡邊 茜さん（2A2）・神田聖司君（1B1）

会 計・松下夕奈さん（2A3）・稲葉七海さん（1A1）

会計監査・高橋ちはるさん（2B1）・秋山貴志君（1B1）が選出された。

1月13日に任命式があり、新生徒会役員が活動を始めた。今後の抱負を、役員を代表して、生徒会長、副会長に聞いた。「新校舎に合わせ、生徒会も新しい活動に挑戦したい。行事も、ただ前例を踏襲するのではなく、生徒一人ひとりの意見をできるだけ反映させ、変えてゆきたい。今、生徒会が力を入れている活動にあいさつ運動がある。多くのみなさんに参加してもらい、学校の雰囲気をよくしてゆきたい。」



奨学会報告 No.123

平成21年度 奨学会役員新年懇親会開催



平成22年1月30日（土）午後2時より、恒例の奨学会役員新年懇親会が、浦安ブライトンホテルで開催された。山本理事長先生始め、井上校長先生、長谷見奨学会会長、参事の方々の出席をいただき、盛会であった。

会は池田総務部長の司会で進行され、丸杉奨学会副会長の開会の辞で始まった。まず、長谷見奨学会会長より、次のような挨拶があった。平成21年度は、新型インフルエンザの流行により、学校行事の縮小および中止、奨学会行事に影響が出るなど、振り回されっぱなしの一年であった。反面、平成22年度は希望に満ちた一年となるであろう。まず、新校舎の完成、新体育館が千葉国体ハンドボール競技の会場となること、その後、創立70周年記念式典が盛大に挙行され、それぞれ奨学会が一丸となって協力して行きたいとのことであった。次に山本理事長からは、新校舎完成を契機に、教職員一丸となって生徒が充実した学校生活を送れるよう心を砕き、また立派に成長して社会に送

り出せるよう指導をしている、とのお話があった。続いて井上校長先生より、平成21年度は学校行事において、新型インフルエンザとの闘いの日々であったということ、また平成22年度は、数多くの記念事業を奨学会員の協力のもと、乗り切って行きたいという旨のお話があった。その後、来賓紹介があり、代表として平山参事より挨拶があった。続いて工藤参事の乾杯の音頭で、宴会となった。歓談では、途中で抽選会が入り、場の雰囲気を盛り上げたり、参加された奨学会員同士の和やかな話し声が、会場に響き渡っていた。会も終盤となり、松丸参事による威勢の良い三本締めでの中締めの後、池田奨学会副会長の閉会の挨拶で散会となった。

この会を通して、奨学会会長、副会長を始め奨学会員の方々が、心の底から子供たちの教育に、熱心に取り組んでいることが痛切に感じられた。



和やかな懇親会

合格速報

バトン部

ボランティア活動

主な合格校一覧

四年制大学			
早稲田大学	2	武蔵大学	2
上智大学	1	武蔵野大学	2
東京理科大学	6	文教大学	2
学習院大学	3	神田外語大学	2
明治大学	2	東京医療保健大学	1
青山学院大学	3	東京電機大学	4
立教大学	6	徳寺大学	4
中央大学	3	千葉科学大学	1
法政大学	6	日本体育大学	1
日本女子大学	5	共立女子大学	1
東京女子大学	4	昭和女子大学	3
東邦大学	3	大妻女子大学	4
北里大学	2	和洋女子大学	1
國學院大學	5	文化女子大学	2
獨協大学	1	日本女子体育大学	5
明治学院大学	4	東京女子体育大学	4
千葉県立保健医療大学	1	大東文化大学	2
昭和薬科大学	1	東海大学	2
昭和大学	1	亜細亜大学	3
芝浦工業大学	2	帝京大学	5
東京都市大学	1	国士館大学	3
順天堂大学	1	千葉工業大学	11
日本大学	14	帝京平成大学	12
東洋大学	14	流通経済大学	2
駒澤大学	4	江戸川大学	2
白百合女子大学	5	桜美林大学	2
清泉女子大学	1	明海大学	6
二松学舎大学	2	大正大学	3
創価大学	2	立正大学	2
玉川大学	1	聖徳大学	6

短期大学		
淑徳大学	4	
目白大学	1	
東京経済大学	1	
東京福祉大学	3	
城西国際大学	1	
文京学院大学	2	
千葉経済大学	1	
千葉商科大学	5	
桐蔭横浜大学	2	
昭和学院短期大学	9	
青山学院女子短期大学	1	
立教女学院短期大学	1	
共立女子短期大学	1	
大妻女子大学短期大学部	2	
帝京平成看護短期大学	2	
東京家政大学短期大学部	1	
千葉敬愛短期大学	1	

各種専門学校		
慈恵看護専門学校	2	
昭和大学医学部付属看護専門学校	1	
東京女子医科大学看護専門学校	1	
大原簿記法律専門学校	1	
日本工学院専門学校	3	
ヤマザキ動物専門学校	1	
山野美容専門学校	2	

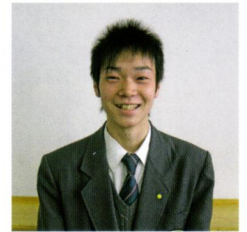
合格者に①～⑤の質問をしました。①クラス・文理の別・氏名 ②現在までの合格大学・学部 ③努力したこと ④平均学習時間(平日・休日・長期休み中) ⑤後輩へのアドバイス

合格者の横顔

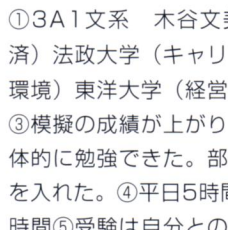


①3A1文系 高西実果②日本女子大学(家政) 東京女子大学(現代教養)③英語は朝の補習と7限目は内容が濃いので、しっかり予習した。長文を一題解くのに、単語、構文調べなど2時間ほどかけた。④平日4時間、休日7時間⑤英語の長文を解くときは、設問項目以外も自分で考えて解く。It、Theyは何を受けるかなど。

①3A1文系 松尾優也②早稲田大学(教育) 上智大学(総合人間科学) 立教大学(文学) 國學院大学(経済)③生活習慣を整える。英単語・古文単語・日本史の流れは早めに頭に入れる。④平日5時間、休日、長期12時間⑤大学への強い思いがあれば自然と勉強の習慣がつく。受験を楽しむことが合格への一番の近道。



①3A1理系 今野修佑②早稲田大学(教育) 立教大学(理学) 東京理科大学(理・理工) 中央大学(理工) 明治大学(理工)③数学は問題が解けなくても、答えを見ないで最後まで自分で解くようにする。④平日3時間、休日8時間⑤モチベーションを下げない。入試の際体調を崩しては意味がないので、体調管理に気をつける。

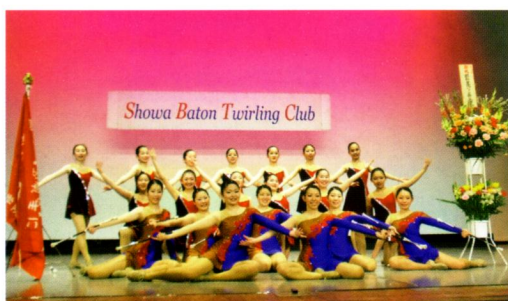


①3A1文系 木谷文美②中央大学(経済) 法政大学(キャリアデザイン・人間環境) 東洋大学(経営) 学習院(経済)③模擬の成績が上がり自信につながり主体的に勉強できた。部活の時は暗記に力を入れた。④平日5時間、休日、長期10時間⑤受験は自分との勝負、自分のペースを大切に「絶対に合格する!」という気持ちと自信を常に持つこと。



第28回 バトン部発表会

歴史を重ね、28回の発表会が市川文化会館小ホールで催された。本年は、対外的に活動する場が増えたため、準備に不安があった。父母会の協力と、コーチの熱心な指導のおかげで、当日を迎えることができた。第二部では、日出学園と田中よりこスタジオの方々の友情出演もあった。楽しい雰囲気の中で予定の演技は進んでいった。来場の方々から次年度に臨む力をもらい成功裏に幕が閉じられた。千葉県国体と学院創立70周年の年に貢献できるように、関係者一同意を新たにしたい。



中学(後方)・高校(前方)のバトン部のみなさん

ライトブルー少年賞・市川善行賞決まる

高校生の甲斐綾美さん(3B3)が今年度千葉県のライトブルー少年賞を受賞しました。

この賞は、昭和49年に創設され善意や親切心に基づく青少年の善行を顕彰しあわせてその気運を全県に広めていこうとするもので、受賞した甲斐さんは社会福祉施設などへの慰問激励や各種の奉仕活動が認められたものです。

甲斐さんは、中学1年生からボランティア活動に意欲的に取り組み八幡学園の訪問や重度障害者のグループを支えたりドルシアのチャリティーに参加したりしました。3年では部長として真間祭で活躍し、またあしなが募金活動でも街頭に立ち市民に協力を呼び掛けました。



県知事に代表挨拶をした甲斐さん



喜びの小泉さん(左)と大杉さん(右)

また市川善行賞には小泉未来子さん(3A4)と大杉舞さん(3B4)が決まりました。二人は高校生になってから内外のボランティア活動に積極的に取り組んだ生徒です。こうした生徒がいることは周囲の人たちに大きな励みになっています。